

巻頭言

界面科学部会 ～その組織と活動内容について～

界面科学部会長 松崎 英男



界面科学部会は、「界面」に関わる学問と産業の発展に貢献することを目的として活動する専門部会である。その前身となる界面化学部会が発足した昭和33年から現在に至るまで積極的な活動を継続している伝統ある部会の一つである。本部会の委員は、日本油化学会に属し、界面に関連する分野で活躍する全国の研究者、技術者で構成され、関東、東海、関西、九州の各地区に活動拠点を有している。本部会の主な活動は各地区での講演会・セミナーの企画、開催であり、加えて年会時には界面科学部会シンポジウム（もしくはランチオンセミナー）を企画している。例えば、関東地区が毎年開催する「界面科学部会秋季セミナー」では、二日間にわたり界面科学に関わる研究開発の最前線を学ぶことができる。その他の講演会・セミナーを含め、界面科学部会HP (<http://www.jocs.jp/kaimen/>) に講演概要等の詳しい情報を掲載しているので是非ご覧頂きたい。なお現在HPは本部会でもご活躍の日本メナード化粧品(株)浅野浩志先生に管理頂いている。

本部会が対象とする「界面」は、界面活性剤やその応用はもちろんのこと、幅広い研究・開発分野に深く関わるテーマである。例えば、私の所属する化学系企業では界面活性剤そのものは事業展開していない。しかし被着体との界面制御が性能を左右する粘・接着剤、媒体と分散質の界面制御により合成される機能性微粒子など、「界面」が深く関わる製品を数多く取り扱っている。このような「界面」の多面性を踏まえて、本部会ではより広い分野の研究・技術者に役立つセミナーが企画できるよう努力を続けている。東海地区で開催している界面科学実践講座を一例として、その取り組みを説明する。本講座は産業界の若手研究・技術者向けの教育的側面を持ち、「わかりやすく」と「幅広く」をモットーとして、毎年

12月の第一金曜日に開催、一日に5件の講座を組む。その構成は、①界面活性剤(概論)、②界面活性剤(応用)、③乳化・可溶化、④界面と機能(洗浄、泡、濡れ、分散、接着)、⑤トピックス、としている。①、③でしっかり基礎を、②、④では界面と産業界の関わりを学び、⑤では界面の面白さを実感して頂くことを狙った構成となっている。②、④ではできる限り広い分野から講師を選定するよう、過去10年分以上の実績を睨みながら毎年議論を重ねている。毎年、多くの企業に新入社員教育の一助として活用して頂いているが、さらに中堅社員にも、改めて界面科学を学び、新たな発見をするために活用されるよう改善を重ねていきたい。

本部会では全国規模での活動を目指しており、先述の通り4地区に活動拠点を置いている。また各地区から選任された正副部会長4名が、本部会全体の運営に携わっている。本年度は荒牧賢治先生(関東)、合谷祥一先生(関西)、柴田攻先生(九州)、及び私(東海)の4名が担当している。全国の日本油化学会会員もしくは法人会員所属の方々に、本部会の活動に関心のある方は、ぜひともお近くの正副部会長までご連絡を頂きたい。正副部会長、及び各地区の委員についても先述の本部会ホームページに掲載されている。活動内容と合わせて確認いただければ幸いである。

本部会が、「界面」に関連する幅広い研究分野、さらにはその研究分野と結びついた各産業界に対して、より一層貢献できる部会へと発展していく為には、幅広い分野から新しいメンバーに参画いただくことが必要と考えている。新メンバーの参画による益々の発展を祈念して、私の拙文を終えることにする。

(東亜合成(株)ポリマー・オリゴマー事業部

新製品開発部)